

同じキムに見えても実は違う！

太宰府市国際交流員 ^{キムシンヒョン} 金辛泫

1月号のコラムで、韓国にはなぜ金さんが多いのか紹介しました。今回は予告どおり、「同じキムに見えても実は違う」というテーマです。

韓国のいくつかの昔のドラマを見ると、「同姓同本」が理由で結婚に反対するエピソードが出たりします。「同姓」、つまり結婚相手が同じ姓であるから結婚を反対することですが、それならキムが全人口の25%を占めている韓国では結婚が難しすぎるのではないのでしょうか？反対の理由は姓だけでなく、「同本」、つまり本貫まで同じ場合です。

本貫とは始祖、根本が同じ氏族を意味します。本貫は通常、始祖の本籍地から取った場合が多く、ある重要な人物から派生した場合があります。ちなみに私の本貫は光山金氏で、光州広域市を本籍地とします。こうしたすべての姓の本貫は4179個、そのうちキムの本貫は計355個だそうです。つまり、みんな同じキムに見えても、実は違うキムなのです。

もちろん現代では、「同姓同本」が理由で結婚に反対するケースはめずらしくなりました。もともとは民法で規定されていましたが、法が施行された当時にも時代錯誤との批判が多く、2005年に廃止されました。

実は最近の韓国では、本貫の意味もだいぶ色あせているので、自分の本貫がどこなのかをそれほど気にしない人も多いのです。少し前までは結婚反対の理由にもなっていたことが、約20年でこう変わったのも不思議ですよ。

人権標語

疑おう

自分のなかのあたり前

みんな違って あたり前

太宰府東中3年
(応募時)

^{おおせら たつる}
大瀬良 建さん



^{なかしま きみこ}
中島 公子
(国分区) 草月流

花材 びわ、スイセン、椿 他

季節の生け花

太宰府市華道連盟

つれづれ

太宰府短歌会

バス停で幼児二人手を振りおり
バスの中より我も手を振る
福岡市 玉本 朝子
子鳥の逃げる様子で眺ねていく
仲間は高き所にて視し
御笠 高塚 茂樹
遠き日の師走は餅播く音のして
弾む心で正月待ちし
青山 磯村 順一郎
立冬の朝の加茂湖はおだやかに
旅の宿より白鳥の見ゆ
都府楼南 猪俣 泰夫
人の命いとも容易く奪い去る
ガザの悲劇の収束願う
五条 大穂 聡子

飛梅句会

介弘 紀子 選
枯山に入相の鐘陰々と
福岡市 工藤 友子
炬燵なき暮らしもいつとなく慣れて
朝倉市 古賀 紀子
船頭の童謡沁みる炬燵舟
大野城市 田代 りえ子
霊峰てふ正にきりりと冬の山
長浦台 徳賀 美智子
炬燵寝の心地良きかな屋下り
馬場 野上 コト子

都久志てんじん句会

佐々木 甘露子 選
棚にまだ母の家計簿石路の花
福岡市 宮津英里子
きつぱりと冬立ちにけり吾が街も
福岡市 北川朴洋子
大海を忘れし魚も小六月
福岡市 塩飽たか子
切株にうつすらと朱や小六月
青葉台 彦坂 正孝
背く道いま切実に神の留守
小都市 貞金 志帆

太宰府俳句会

持永 真理子 選
まさかなる地震近き子へ初電話
星ヶ丘 柴田慧美子
稲荷社の祠に満つる淑気かな
水城 福永 恵美
どことなく不安抱へて日記買ふ
小都市 宮原 勝彦
おみくじも絵馬も新たな年迎へ
連歌屋 吉嗣のり子
元気です賀状で知るや遠き友
高雄 西元 治雄

宝満句会

菅井 久美子 選
冬雲や昼を灯してミルクティ
観世音寺 野田 杉子
かいつぶり一人遊びに明け暮るる
高雄台 川路 泰子
冬の雲風と抗ひ海に落つ
大佐野台 金丸 恵子
冬雲や海峡渡る遠霧笛
星ヶ丘 江里口 幸生
凍雲や人もまばらな商店街
大野城市 福岡 とみ子

太宰府川柳倶楽部

小池 一恵 選
初句会一人前の思案顔
青葉台 桑野 勝之
蒔いた種よりも雑草よく育ち
筑紫野市 吉田 敬子
宇宙へのチャレンジ続く町工場
都府楼 杉良子
光射す隙間に眠り又誘う
観世音寺 河原 明子
ダメ元に挑む難関校の壁
星ヶ丘 武末 次生